



二中だより



第42号 2025（令和7）年1月17日 発行責任者 加賀谷 登

生徒会本部役員新体制決定



任命式



旧本部役員退任挨拶



新本部役員着任挨拶

新生徒会本部役員

会 長	： 吉原 莉乃	さん
副 会 長	： 山市 祐大	さん
	芳川 心春	さん
	横田 花凜	さん
執行委員	： 湯浅 七海	さん
	吉田 誠	さん
	西田 柚乃	さん
	松田 結優	さん
	高島 心愛	さん

1年間よろしくをお願いします！

1月7日（火）の全校集会において、新しい生徒会本部役員の任命を行いました。一人一人に任命書を手渡した後、旧本部役員一人一人が退任の挨拶を行いました。その後、新生徒会長の吉原莉乃さんが代表して挨拶を行いました。新役員全員がやる気に満ちあふれていました。4月からは、樺地区が二中校区となり、新しい仲間が増えます。これまで培ってきた阿南第二中学校の伝統の上に、新しい歴史を作っていくこととなります。その舵取りをしっかりとお願いしたいと思います。

旧生徒会本部役員のみなさん、1年間大変お世話になりました。生徒会本部役員の活動は、授業や部活動などとは別の活動となり、いろいろな行事の計画・実施等、それにかかる時間も長く、非常に忙しかっただろうと思います。しかし、みなさんのリーダーシップのおかげで、二中祭をはじめとする学校行事も素晴らしいものとなりました。また、1年間続けた挨拶運動も大変お世話になりました。

年頭所感の発表

全校集会において、各学級代表による年頭所感の発表がありました。今号では1年生2名の発表を紹介します。

私は新年を迎えて、余裕を持つということを目標にかかげたいと思います。まず、学習の面では、昨年は苦手なものを後回しにしたり、先延ばしにしたりすることが多くありました。その結果、やらなければならないことがたまってしまい、気持ちばかり焦ってじっくり勉強できず、苦手意識を拭えませんでした。今年は先延ばしにしたりせず、計画的に自主学習することにより、気持ちに余裕をもち、苦手科目にも前向きに取り組んでいきたいと思っています。部活動の面では、緊張や不安で全く余裕がもてませんでした。練習や試合で見てきた課題がたくさんあるので、昨年以上に練習に励み、課題を解決していきたいです。これらの目標を達成するために、一番に計画を立てて時間に余裕をもつことだと考えます。そうすれば自分のやるべきことに向き合えます。向き合った結果、自分に自信がつき、気持ちにも余裕ができます。気持ちに余裕をもつことでどんな時でも自分の力を最大限に発揮できると思うからです。だから、私は余裕をもつということを新年の目標にしたいと思います。

1年1組 横田 朱音

私は新年を迎え、勉強によく取り組むことを目標に掲げたいと思います。理由は、あと数ヶ月で第1学年から第2学年へと進級し、勉強がより一層むずかしくなると思ったからです。9教科全てに取り組み、特に苦手である数学、英語には時間を掛けしっかり復習をしたいと思います。

私が目標にしたいことはもう一つあります。それは読書続けることです。理由は、読書をする事でいろいろなメリットを得られるからです。読書は勉強にも部活も自分の気持ちにも良い影響をもたらしてくれて自分のモチベーションもあげてくれます。これが読書続けることを目標にする理由です。

私は、この二つの目標を成し遂げるために、毎日努力し、そして、その努力を大切にしていこうと思います。

1年2組 加藤 怜実

阪神・淡路大震災から30年！

1月17日を迎えました。阪神・淡路大震災から30年を迎えました。

1995（平成7）年1月17日（火）5時46分52秒に発生した兵庫県南部地震により引き起こされた災害です。死者は災害関連死も含め6,434名、行方不明者は3名でした。また、負傷者は43,792人、住宅被害は多数に及びます。

この日、私は伊島の教員住宅で寝ていました。大きな揺れで起こされ、慌てて外に飛び出したのを覚えています。同じように出てきた先生方と「大きな地震だったなあ」「津波は大丈夫かな」などの話をしたように思います。もういと寝入りして、学校に登校すると、まるで戦争でもあったような神戸の街がテレビに映っていました。建物は壊れ、至る所で火災が発生していました。テレビを見て驚いた声を上げた後、みんな何も言えなくなりました。それから30年経ちました。いろんな出来事があったあと、あの時何をしていたかなと思い出しても、ほとんど記憶がありません。しかし、この阪神・淡路大震災と東日本大震災のときのことは、はっきりと覚えています。阪神・淡路大震災以後、災害に対する取組は大きく変わってきました。家屋の耐震基準や医療現場でのトリアージ、一部商品の規格の統一など、万が一に対する備えが真剣に考えられてきました。避難所のあり方なども改善が加えられてきました。東日本大震災や熊本大地震などを経て、災害が起こった時の考え方、実際の備えは、ずいぶん進んだように思います。しかし、能登半島地震後の状況をみても、なかなか改善していかない面も多くあるように思います。

1月15日（水）に政府の地震調査委員会が、南海トラフ大地震が30年以内に発生する確率を「70%から80%」に引き上げました。平常時に比べて発生の確率が高まっているわけではないということですが、引き続き地震への備えを呼びかけています。

南海トラフ大地震は避けられない自然災害です。日本列島は災害大国と言われるように、自然災害が多い国です。どこに住んでいても、災害に見舞われる可能性があります。特に、南海トラフ大地震と向き合っている地域に住んでいる私たちは、阪神・淡路大震災、東日本大震災等を教訓に、災害が起こったときのことを、真剣に考えていかなければいけません。災害グッズなどが各家庭で準備され、避難経路等も話し合われています。しかし、地震のニュースが遠ざかると、忘れてしまいがちになります。阪神・淡路大震災が起こったこの日に、亡くなった人たちへの慰霊を捧げるとともに、今一度、一人一人が災害への備えを確認していかなければならないと考えます。また、阪神・淡路大震災が起こった日のことを覚えている方は、それを知らない子どもたちにしっかりと伝えてください。

冬休み中の部活動の記録

冬休み中に行われた部活動公式戦の記録を紹介します。

【卓球】12月25日

徳島県中学校新人卓球大会（団体）

2回戦 阿南二中 3 対 2 富田中

3回戦 阿南二中 1 対 3 神山中A

【ソフトテニス女子】12月27日（土）28日（日）

四国中学生インドアソフトテニス大会

団体

1回戦 阿南二中 1 対 2 土佐女子中

個人

2回戦進出 是松・西内ペア

1回戦敗退 勇・吉原ペア